

栃木県眼科医会理事会だより(令和元年度第2回)

日 時：2019年7月17日(水) 午後7時から

場 所：宇都宮市医師会館

出席：【会長】吉澤徹 【副会長】石崎道治、釣巻穰 【理事】井岡大治、稲葉全郎、上田昌弘、大塚信行、大柳静香、金子禮子、久保田芳美、斎藤信一郎、関本慎一郎、高橋雄二、堤雅弘、永田万由美、橋本尚子、細川美奈子、渡辺芽里 計18名

欠席：【理事】青瀬雅資、井上裕治、大久保彰【監事】原裕、旭英幸【顧問】柏瀬宗弘、川島秀俊、妹尾正、新井田孝裕、宮下浩 計10名

《会長挨拶》

皆さんこんばんは、梅雨の長雨ではっきりしない天気が続いていますが、季節は7月も半ばが過ぎ、もうすぐ真夏をむかえようとしています。令和の理事会も第2回となり、年度内での方針を決める大事な議題が多く集まっています。幸いこのところメーリングリストでの意見交換も活発化してきて、好ましい事と考えています。本日も、多くの方からのご発言を期待しています。

《総務》

報告1. 令和元年度第1回関ブロ支部長会議(5月25日(土)ホテルメトロポリタン高崎)出席報告 【吉澤】

吉澤会長、出席

出席者 神奈川県：小口 和久

埼玉県：猪俣 俊晴

千葉県：麻薙 薫

茨城県：伊藤 睦子

栃木県：吉澤 徹

山梨県：今井 雅仁

新潟県：中山 徹

群馬県：丸山 明信

長野県：野中 隆久

(出席者は昨年と変更なし)

1) 開会の辞 群馬県眼科医会会長 丸山 明信

2) 協議事項

神奈川県：なし

埼玉県：なし

千葉県：なし

茨城県：なし

栃木県：インターネット関連事業の取り組みについて

現在、新潟、群馬の他は県眼科医会のホームページを持っており、近いうちに全て揃う予定。

内容は似通っており、会員用ページを持つところが殆どだが、長野では他県の眼科医のために全て閲覧可能としている。今後トップページから見られる情報も増やしてゆく必要があると思われた。

眼科疾患等に対する情報提供、啓発等の内容を載せているのは、神奈川のみであるが、これらは日本眼科医会が代表して記事等を充実させ、更に種々の方法でネットに発信してゆくのが良いと考える。(今回、当県の代表質問はそれに沿ったものである)

山梨県：なし

新潟県 : なし
群馬県 : 公益社団法人 日本眼科医会 創立90周年記念事業一般公開「目の健康講座」
に対する関東甲信越地区眼科医会連合会の助成金について
長野県 : なし

3) 報告事項

神奈川県 : 1) 各県会長会メーリングリストを作成した。
2) ロービジョンケア紹介リーフレット「スマートサイトかもめ」を作成した。

埼玉県 : なし

千葉県 : 千葉県版ロービジョンスマートサイト『アイサポネットちば』を作成した。

茨城県 : なし

栃木県 : なし

山梨県 : 平成30年度目の健康講座 会計報告

新潟県 : なし

群馬県 : なし

長野県 : なし

4) 日眼医定時代議員会ブロック代表質問

群馬、神奈川、栃木、千葉、新潟から5題の代表質問案が紹介され、続いて行われる連絡協議会で3題が選ばれることになった。

5) 第56回関東甲信越眼科学会開催について

長野県

日程 : 令和2年5月23日(土)・5月24日(日)

場所 : 軽井沢プリンスホテル ウェスト

主催 : 長野県眼科医会

6) その他

広域診療をおこなう眼科診療所グループについての意見交換、情報の共有が行われた。

7) 閉会の辞 長野県眼科医会会長 野中 隆久

報告2. 令和元年度第1回関ブロ連絡協議会(5月25日(土)メトロポリタン高崎)出席報告 【石崎】

吉澤徹(県会長・日眼医代議員)、石崎道治(県副会長・日眼医代議員)、原裕(関ブロ監事)出席
議題

1) 世話人より提案・協議事項

(1) 平成30年度事業報告 : 第54回関ブロ(新潟)の報告

(2) 平成30年度決算報告 : 収入 36,792,027円

支出 9,684,653円 時期繰越金 27,107,374円

(3) 平成30年度監査報告 : 原裕(栃木) 中村丹雄(茨城)

(4) 日眼医定時代議員会ブロック代表質問

① 眼鏡不具合事例、CL眼障害事例等の重要性について。データ収集を積極的に行うよう要望する。(神奈川)

② 本年度から使用されるデジタル教科書への対応について。視機能を守るため適正な使用を文科省、厚労省などへ積極的に働きかける。(千葉)

③ 日眼医90周年記念市民講座への補助金減額。600万円から300万円になった経緯と今後の処置を伺いたい。(群馬)

④ 日眼医として国民に伝えるべき情報をYOU TUBEなど公式チャンネルで発信することを検討して下さい。(栃木)

- ⑤ 6歳未満の屈折検査について。幼児の屈折検査と矯正視力の併設を認めるよう要望する。
(新潟)

2) 各県からの提出議題・報告事項

提出議題

栃木県：インターネット関連事業の取り組みについて（公式アカウント設立への検討など）。

群馬県：日眼医90周年記念事業「目の健康講座」に対する関ブロの助成金について。→助成金を増額して援助する。

報告事項

神奈川県：①各県会長会メーリングリストを作成した。

②ロービジョン紹介リーフレット「スマートサイトかもめ」を作成した。

千葉県：①ロービジョンスマートサイト「アイサポネットちば」を作成した。

②有料検眼検査（3000円）メガネのアイックス銀座店の広告が日本経済新聞の情報誌に掲載された。他県ではどうか。

③第1回災害対策委員会報告。

1. 日眼医本部の災害対応

2. ビジョンバンの現況

3. 地区眼科医会へのアクション

山梨県：平成30年度「目の健康講座」会計報告。

3) 日眼医報告：野中 隆久 副会長

本年度事業計画は視覚障害者支援を重点に企画

4) 日眼医代議員総務・経理合同常任委員会報告：総務 吉澤 徹

経理 岡田 裕

「内容は栃眼医理事会だより（令和元年度第1回）総務報告をご覧ください」

5) 第56回関東甲信越眼科学会開催について

日程：令和2年5月23日（土）・24日（日）

場所：軽井沢プリンスホテル ウェスト

主催：長野県眼科医会

6) 令和元年度第2回関ブロ連絡協議会開催について

日時：令和2年3月1日（日）

場所：ホテルキャメロットジャパン（横浜市）

報告3. 令和元年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会（6月22日（土）・23日（日）ザ・キャピトルホテル東急）

出席報告

【吉澤】

吉澤徹代議員、石崎道治代議員出席

代議員総数144名、出席代議員140名で、会は成立した。

白根会長挨拶

- 1) この一年全国各地でさまざまな災害が起こった。本会では、災害対応マニュアルを作製し、各地で起こるさまざまな災害に対応すべく準備している。今後の参考にさせていただきたい。
- 2) 日本は少子高齢化という大きな問題に直面している。2050年には全国3割以上の市町村で、65歳以上の高齢者が50%を越える、といわれている。今後の社会保障体制を守るために新たな対応が必要になるであろう。
- 3) 来年は診療報酬改定の年であり、特に注目されるのは多焦点眼内レンズへの対応、また、屈折、細隙灯、眼圧、眼底検査等基本検査を守り、一包化を防ぐ事、これらについて、日本眼科社会保険会議等を通じて日眼とも密接な連携をはかり、関係省庁との交渉を行っていききたい。そのためには、平素から、常識から逸脱した、画一的、傾向的請求が行われ、批判的にならないように、自浄作

用への努力も必要であると思っている。

- 4) 今後、政府としては、予防医療に力を入れてくる事が予想される。予防には、疾患の予防、早期発見、リハビリ、という3段階があり、眼科医会としてはそれらに対応して、疾患への啓発、公的眼科検診の確立、ロービジョン対応に力を入れてゆく予定である。特に来年はパラリンピックも開催されるため、それに合わせて、視覚障害者支援事業に眼科医が積極的に関わるための政策が必要と思われる。
- 5) 新専門医発足に伴い、当会への入会は専門医取得の必須項目でなくなっている。よって、今後は眼科医会で将来の組織率の低下が懸念され、それによって種々の問題に対する意志の統一ができなくなり、意見の発信力が低下するという問題が起こってくる可能性がある。その対策として、今後C会員に的を絞り、入会のための啓発、会費の減額、有利な所得補償保険、医師賠償保険の紹介、などを行っていく予定である。

議題について

報告

- (1) 平成30年度日本社団法人日本眼科医会物故会員の件

全国で計67名の物故会員が報告され、冥福を祈り黙祷が捧げられた。(本県からの該当者は無し)

- (2) 平成30年度日本社団法人日本眼科医会会員表彰の件

会長賞15名、会長表彰49名、感謝状7名が表彰された。本県からは小西恒夫先生、および吉澤徹会長の二名が該当した。

続いて議事として以下の議案が討議された。

第一号議案 平成30年度公益社団法人日本眼科医会事業報告の件

これについて、全国より38題のブロック代表質問が上がり、2日間にわたり活発な討論が交わされ、23日の11時50分、可決承認された。

本県からは、医療情報の発信法として、今後YouTubeなどの動画共有サービスに公式チャンネルを設けるなどして、今までより広範囲で強力な情報発信を行ってはどうか、日本歯科医師会では2011年より事業を開始しており、現在900以上の動画を上げ国民への啓発、会員への情報紹介などに役立っている。成功例として参考にしてはどうか、という趣旨の質問をした。執行部からは、今後新たな戦略として検討すべき項目と認識している、との回答を得た。すでにCL問題でも、医療対策、公報、学校保健などが連携して若年者への啓発活動に使うプランを検討中、との事、今回の質問がそうした活動強化へのきっかけとなれば、と考えている。

内容については、日本の眼科第90巻第7号に掲載される予定。

第二号議案 平成30年度公益社団法人日本眼科医会決算の件

第三号議案 令和2年度公益社団法人日本眼科医会会費賦課徴収の件

令和2年度より、A会員 45,000円、B会員 15,000円、
C会員については7,000円から減額し3,000円とする。

以上の議案は定款に基づき、承認された。

- (3) 令和元年度公益社団法人日本眼科医会事業計画の件

- (4) 令和元年度公益社団法人日本眼科医会予算の件

以上が上梓され、報告された。

報告 4. 日眼医より連絡の令和元年度各都道府県眼科医会への助成金について

【吉澤】

助成の金額は10万円

振込依頼書は、事務局で記入・押印して日眼医に送付。

(経理堤理事に確認済)

吉澤代議員出席

委員会出席者

委員 鈴木 純一（北海道ブロック）	松橋 英昭（東北ブロック）
吉澤 徹（関東甲信越ブロック）	馬詰 良比古（東京ブロック）
花崎 秀敏（東海北陸ブロック）	森井 勇介（近畿ブロック）
三木 統夫（中国四国ブロック）	田畑 賀章（九州ブロック）
加藤 圭一（日本眼科医会）	柳田 和夫（日本眼科医会）

執行部 白根 雅子（会長） 野中 隆久（副会長）
柿田 哲彦（常任理事） 浅井 利通（理事） 盛 隆 興（理事）

I. 開会の辞

柿田 哲彦（常任理事）

II. 会長挨拶

現在の日眼医の活動重点項目として、全国で豪雨災害などが多発しているため、ブロックごとに設置した災害対策委員会を基点として、地域ごとに最適な防災対策を進めてゆく予定である。また、来年はパラリンピックが開催される年であるため、それに合わせて、視覚障害者対策を進めてゆきたい。

III. 委員紹介、委員長挨拶

その後、柳田委員長の司会で議事が進行された。

IV. 議 題

1. ブロック実情報告

全国的には眼科有床診療所の数は減少を続けており、北海道で1施設の減少、東海北陸では4施設減少した。そのうち1施設は過去一年間入院実績がないことから三重県地域医療構想会議より辞退勧告があったため、との事。中国四国では5施設の減少を見ている。東北では1施設の新規有床診療所が認められた、とのこと。

関東甲信越では全体数はほぼ同数であったが、山梨で1施設増えている、これは休んでいた有床診療所を継承し復活したものである。

当県では小山市の診療所が有床化を目指し、2018年4月に施行された『良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法の一部を改正する法律』に基づいて県に願ひ出していたが、栃木県県南福祉センターでは、地域包括ケアに伴う病院ごとのベッド数の再構築に力を注いでいる状態で、眼科有床診療所の開設には初めから否定的で、許可されなかったという件を報告した。実際、眼科領域では、専門的な高度医療を提供するモデルとして、地域に貢献することが可能であり、今後もそういった点をアピールするべき、と思われるが、厚労省自体が、眼科は今後無床でいいと考えている節もあり、今後も新規開業のハードルは高そうである。

東北で認められた1施設については、夫婦ともに眼科医であり、過疎地域であるため、もともと医師が求められていた状況であったことなどが認められた要因であったと思われる。

2. 有床診療所の活性化を目指す議員連盟提言書について

令和元年6月26日、有床診療所の活性化を目指す議員連盟（野田 毅会長）によって発表された。骨子は以下の通り。

1) 診療報酬上の対応

入院基本料と加算の引き上げを望む。

2) 病床機能強化

地域での病診連携、診診連携を進め、会報病床を制度化する他、看護やケアの必要度

が高い患者を受け入れる体制を評価する。

3) 医業継承税制

継承を後押しすべく、恒久的な税制優遇措置を求める。

4) 看護、介護職員(外国人人材を含む)の確保支援

5) 有床診療所運営における様々な要件の緩和

3. 眼科有床診療所を継続(維持)する方法について

上記の2. に一致する部分もあるが、眼科としては短期入院による急性期医療を行うことに對して何らかの加算が望まれる。また、眼科有床診療所ならではの活用しやすい施設基準を設定することも有用なのでは、と思われる。

4. 次年度以降の眼科有床診療所検討委員会について

昨年に引き続いて野中副会長よりの提言があり、取りあえず今年を最後に一年に一度の開催を終了し、あとは必要に応じて再招集する場合に備え、各県の担当、ブロックごとの代表は維持しておくように決定した。

5. 第32回全国有床診療所連絡協議会総会(於:群馬県)について

2019年7月27日(土)・28日(日) ホテルメトロポリタン高崎で開催予定。

テーマ「個性あふれる有床診〜今こそ、”かかりつけ医”の活躍を〜」

6. 「日本の眼科」原稿執筆について

「有床診療所だより」を第61回、令和元年度いっぱいまで終了することになった。

V. 閉会の辞

野中 隆久(副会長)

以上をもって会は終了した。

付帯協議: 県有床診療所担当理事について

年一回の有床診療所会議は維持されないことになったが、組織そのものは残る予定である。よって、最近空席であった「栃木県有床診療所担当理事」は、今後稲葉全郎先生にお願いすることになった。

報告 6. 栃木県眼科一次救急診療についての栃木医療センターとの面談について

【吉澤】

6月28日(金)、栃木医療センター

出席者: 栃木医療センター: 長谷川親太郎院長、田村明彦副院長、菊池純一事務部長、他6名
本会: 吉澤会長、石崎道治・釣巻穰副会長

今年6月末までの収支状況、時間別来院状況、地域別来院状況など、確認させていただいた。簡単に言うと、今年は10連休の日直にかなりの患者が来院し、また、昨年県庁医療政策課にお願いし各種の対策を行ったこともあり、今年度単独では黒字になりそうな状況である。医療センターも今回はこのまま様子を見たい、との事で、こちらも了承した。

ただ、今年は特別な5月のスケジュールにだいぶ助けられたこともあり、また、全体の傾向として、日曜診療の眼科医療機関が増えた影響(特にインターパーク店)は今後も残るので、「今後の状況によっては、早めの対策(救急診療体制の変更)が必要になるだろう。」「一次救急を受診する患者が増えるような対策を両方で考え、行政への働きかけを続けていこう」という事でほぼ意見が一致した。

また、「一年前に長谷川院長と医療政策課に陳情に上がった時にもそう感じたが、今後も赤字対策に行政が予算を計上してくれるのは無理だろう」との長谷川院長のお考えだった。期待できるのは、メールによる通知、ネット情報の充実などの対策費のみ、という事。

「栃木県眼科一次診療契約書」を見直し、再締結するため、理事各位と検討する。

報告 7. 会員の變更**【斎藤】**

退会 B 山田徹人 (那須塩原市 いしばし眼科)
自宅住所變更 1名

協議 1. 都道府県眼科医会連絡会議(11月9日(土)・10日(日) AP新橋)の件**【吉澤】**

吉澤徹会長出席予定

協議 2. 理事職務担当の確認と部編成の件**【吉澤】**

理事会の各担当については、平成20年度まではコメディカル、公衆衛生、医療対策、福祉となっていたが、21年度からはコメディカルを廃し、医療安全対策及び福祉、公衆衛生、医療対策に変更となっている。また、平成27年度からは男女共同参画が加わり現在に至る。それぞれの分担は会報、HPなどに載っている事業計画を参考にさせていただくが、日眼医からの連絡元と完全に一致するとは限らず、また、今後の人材の状況や新しい取り組みが発生した場合、新しい部門を新設する可能性もあるがその都度柔軟に対応してゆきたい。

協議 3. 栃木県眼科一次救急診療について**【吉澤】**

報告 6 について検討した結果、医療センター側から提示された契約書改定案をもとに、吉澤会長に一任し交渉を進めることになった。

《経 理》**【堤】****報告 1 第 60 回栃木県眼科医会研究会決算報告**

支出の部 222,740 円 (講師御礼 2 名)
収入の部 147,000 円 (AB 会員 46 名、C 会員 6 名)
差額の 53,000 円を栃木県眼科医会一般会計より補填。

報告 2 令和元年栃木県眼科医会会費納入状況

会費自動引落は 6/19 日付けで 70 名の納入を確認。
振込は 7/10 日時点で 58 名の納入を頂いており、37 名の納入待ちの状態。
7 月中の納入期限。

協議 1 第 23 回眼創傷治癒研究会寄付の件

獨協医科大学主催学会のため、20 万円の寄付を決定。

協議 2 春の集談会講師御礼金金額の件

4 月の眼科集談会の特別講演者への謝礼金について、川島秀俊監事からの要請があった。
日曜に行われ、長時間拘束される事、また、著名な講演者が招聘される事が多いことなど、諸事情に鑑み、この会については、来年度より謝礼金 15 万円 (手取り 15 万円のため、講演料は 167,056 円、源泉税は 17,056 円で設定。) に変更する事に決定した。尚、その他の講演料は今まで通りとする。

《学 術》**【大久保】****報告 1. 第60回栃木県眼科医会研究会(6月14日(金)宇都宮グランドホテル、ノバルティスと共催)開催報告**

56名出席

講演1「黄斑疾患 最近の話題 CSCとPED、AMDへのPDT」

井上裕治先生 (自治医科大学眼科学講座 准教授)

講演2「糖尿病網膜症：治療の進歩」

鈴間潔先生（香川大学医学部眼科学教室 教授）

報告 2. 第42回獨協医大眼科栃眼医合同講演会（7月12日（金）開催報告

64名出席

特別講演1「白内障手術 ～私のこだわり～」

藤田善史先生（藤田眼科院長）

特別講演2「屈折矯正手術アップデート2019」

神谷和孝先生（北里大学医療衛生学部視覚生理学教授）

協議 1. 第9回ぶどう膜カンファレンス（9月20日（金）宇都宮グランドホテル）の件

講演 1：ミニレクチャー

特別講演： 感染性ぶどう膜炎のマイブーム

後藤 浩先生（東京医大眼科主任教授）

協議 2. 第 8 回栃木県眼科医会獨協医大眼科病診連携の会（11月8日（金） 宇都宮グランドホテル）の件

日程のみ決定 講師は獨協医大眼科に確認中

協議 3. 第13回栃木県内科眼科関連疾患懇話会（11月21日（木） 宇都宮グランドホテル）の件

演題 1：川崎 良先生（大阪大学眼科学教室視覚情報制御学寄付講座 教授）

演題 2：荒木栄一先生（熊本大学糖尿病・代謝・内分泌内科 教授）

協議 4. 第78回栃木県眼科集談会の開催について

11月15日（金）宇都宮市医師会館講堂で開催予定。

《医療安全対策及び福祉》

【関本】

報告 1. 平成31年度眼科コメディカル研修会の件

受講者 14名 修了証書取得 14名

報告 2. 第90回栃木県眼科医会ゴルフコンペ（6月2日（日） 宮の森カントリークラブ）開催報告

18名参加。

優勝 関本慎一郎先生 準優勝 高橋佳二先生

報告 3. 関ブロからの依頼の日本眼科医会医療対策委員会への意見募集の件

本会からは、集中討議：「ペイシエント ハラスメント 最近の傾向とその対策」について回答

- ・問題発生時の対応や説明に齟齬がないように一定のマニュアルを作る
- ・よく話を聞き、しっかりと記録を残す
- ・事態の收拾が困難で業務に支障が出るような場合は警察への連絡も考える

協議 1. 第 91 回栃木県眼科医会ゴルフコンペの件

10 月頃に開催の予定

協議 2. 令和元年度忘年会の件

12月4日（水）とする。場所は関本担当理事に一任することになった。

《保 険》

【井岡】

報告 1. 令和元年度関ブロ保険委員会 (5月25日(土)ホテルメトロポリタン高崎) 出席報告

大久保審査委員出席。報告3の審査員連絡会でその内容を報告していただく。

報告 2. 令和元年度全国審査委員連絡会議 (6月23日(日)TKP品川カンファレンスセンター) 出席報告

川島審査委員が出席できなくなったため急遽 井岡理事が出席に変更となった。会議の結果は日眼医のHPのメンバーズルーム「社会保険Q&A検索」に追記される。「日本の眼科」に記録として掲載される予定。

報告 3. 令和元年度第1回審査委員連絡会の (6月25日(火) 宇都宮市医師会館) 開催報告

大久保彰社保審査委員、大野研一社保審査委員、鈴木重成社保審査委員、福島国保審査委員、井岡大治理事の出席にて開催された。令和元年度関ブロ保険委員会と令和元年度全国審査委員連絡会の会議の報告と各議題についての報告が行われた。また、これまでに審査で経験した疑義や問題に対する対応について議論が行われた。

報告 4. 日眼医より連絡の「保険医療機関の診療科別平均点数眼科抜粋」について

各地方厚生局のホームページに、診療科別の平均点数が公表された。(「保険医療機関等の診療科別平均点数一覧表」)。その中から眼科のみを抜粋し、各都道府県および全国平均を一覧表報告した。個別指導の選定要件等が記載されている「集団的個別指導及び個別指導の選定の概要について」も報告した。

協議 1. 介護・在宅医療担当理事について

来年まで井岡理事が担当、来年度は他の理事に交代予定。

協議 2. 令和元年度都道府県眼科医会保険担当理事連絡会 (10月28日(月)~11月27日(水) パーチャル会議) について

井岡理事出席予定。提出議題は8月2日(金)までが期限。

来年の診療報酬改定に向けて要望があれば知らせてほしい。

釣巻先生から「CL診療料の除外項目について、疑い病名でもCL外診療ができるよう、要望してほしい。」との意見が出た。

《広 報》

【大柳】

報告 1. 栃眼医会報第52号発送について

栃木県眼科医会報第52号は7月31日発行予定。

《学校保健》

【久保田】

報告 1. 第43回全国学校医連絡協議会(9月29日(日)東京グランドホテル)の出席者と提出議題について

久保田理事出席予定 以下の議題を提出した。

眼科医療機関でコンタクトレンズ(以下CL)定期検査を受ける人数は近年減少傾向にあると思われる。学校現場においてもスポーツ指導者や教師がCL定期検査を軽視しているようなケースが増加しているようだ。ネットや量販店での購入を安易に推奨している例もあると聞く。学校現場においてCLによる眼障害の危険性周知が不十分なようだ。

眼科学校医が担当校で啓発するのは勿論必須だが、日本眼科医会としても様々な周知の方法で児童生徒や保護者、教師などに対してCL定期検査の重要性を指導・啓発活動することが必要と思われる。

ネット購入などCL装用開始時に眼科医療機関を受診しない例に対し、CLの正しい知識啓発を目的に、You Tubeなどでの動画作成やSNSでの広告増加、教育委員会と協力した学校関係者側への直接指導など、日本眼科医会主導で積極的に様々な方法でアプローチされるのは如何でしょうか。

《公衆衛生》

報告 1. スマートサイト講習会 (6月29日(土)出席報告) 【渡辺】

本会からは、3名が出席

鈴木重成先生 (獨協医大眼科)、横尾奈央先生 (獨協医大眼科)、渡辺芽里先生 (自治医大眼科)

協議 1. 目の愛護デー記念行事 (10月6日(日)宇都宮市健康センター(7Fスケエビル9階)開催について) 【大塚】

「中高年に多い目の疾患と早期発見の秘訣」

新井田孝裕先生 (国際医療福祉大学保健医療学部視機能療法学科 学科長・教授) の講演決定。

無料相談員: 田口裕隆先生 (栃木市 大平眼科) (手紙は事務局より発送済)

福澤裕一先生 (小山市 小山福澤眼科)

日程: 14:00~15:00 目の健康講座

15:00~(受付15:30まで) 目の無料相談

15:00~(受付15:30まで) 眼圧無料測定

下野新聞への投稿: 久保田芳美先生に依頼。

ポスター: 色 緑色とする。

後援依頼: 栃木県 宇都宮市 栃木県医師会 宇都宮市医師会 (手紙事務局より発送済)

栃木県は保健福祉部健康増進課難病対策担当宛、宇都宮市は、健康増進課宛に送る。

協議 2. 日眼医より依頼の「2019年目の愛護デー行事予定表」について 【大塚】

締切は7月25日(木)。

協議 3. スマートサイト(ロービジョンケア紹介リーフレット)作成について 【渡辺】

6月29日のスマートサイト作成講習会が行われ渡辺理事も出席した。

獨協医大の鈴木先生に適宜アドバイザーになっていただき渡辺理事を中心に、今年中に作成することを目標として進めることで決定。

吉澤会長と事務局が掲載候補9か所をピックアップした。随時進捗状況を理事会で報告する。

AMEDの補助金(10万円以内)を申請する予定。

発行部数や、愛称(愛知県:みきゃん愛ネット、新潟県:ささだんごねっとなど)が今後の検討項目。

(吉澤会長より、「おおるり」でどうかと意見があった。)

協議 4. 日眼医より依頼の「災害対策担当役員」選任について 【吉澤】

目的は、都道府県眼科医会での「大規模災害時の行動指針」の作成等の災害対応の検討。

都道府県眼科医会における災害対策の強化と日眼医との情報共有の強化。

締切 9月30日(月)

医療安全対策及び福祉が担当することに決定した。

《医療対策》

【高橋】

報告 1. 栃木県庁薬事課と栃木県医師会訪問 (7月4日(木))

吉澤徹会長と高橋雄二理事、稲葉全郎理事で栃木県県庁薬務課に講師の依頼およびコンタクトレンズ管理者継続講習会(12月1日(日)開催)の概要について陳情する。

栃木県医師会には、コンタクトレンズ管理者継続講習会の後援を依頼した。

《勤務医》

【上田】

報告 1. 第24回栃木県眼科手術談話会（5月17日（金）、宇都宮市医師会館）開催および収支報告

66名参加、 収入：186,870円 支出：171,454円 黒字分 15,416円 を一般会計へ納入

一般演題：4題

特別講演：「MIGSの現状」 原 岳先生（原眼科病院院長）

報告 2. 令和元年度関プロ勤務医委員会（5月25日（土） ホテルメトロポリタン高崎）出席報告

上田理事出席

【議 題】

- 1) 各県眼科医会役員の本会員の人数および割合と、その役割分担について（神奈川県）
- 2) 働き方改革関連法の勤務医へ及ぼす影響～現場では何が変わったのか
勤務医の年休取得状況と取得のための工夫や方策について（千葉県）
- 3) DPC病院において、白内障手術の入院日数の短縮化や外来手術への移行を検討している病院はあるか（山梨県）
- 4) 白内障手術における抗菌薬の全身投与について（山梨県）

協議 1. 日眼医より依頼の「都道府県別新眼科医数調査」について

栃木県は5名（自治医大：3名、獨協医大：2名）。

8月8日（木）までに、上田理事がFAXにて回答する予定。

報告 2. 第20回全国勤務医連絡協議会（11月17日（日）東京コンファレンスセンター・品川）への出席者と提出議題

上田理事出席予定、 提出議題は未定。

9月5日（木）までに、上田理事がメールにて連絡する予定。

《男女共同参画》

【金子】

報告 1. 令和元年度第1回関プロ男女共同参画委員会（5月25日（土）ホテルメトロポリタン高崎）出席報告

金子理事出席

議題 1) 各県眼科医会での女性医師の就職相談窓口について

9県ともなし。

群馬、埼玉、千葉、栃木、茨城、新潟とも県医師会や大学病院に相談窓口 や支援センターがある。

千葉県より東京女子医科大学の女性医師再教育センターの復職プロジェクトを利用し再就職につなげた例の報告があった。

栃木県眼科医会では今後、眼科医会に相談があれば、男女共同参画理事が窓口になり対応することを伝えた。

議題 2) 女性医師に関わる委員会や部会について

埼玉、栃木、茨城、長野、群馬にはない。以前よりあった千葉県と新潟県、開催し間もない神奈川県より活発に意見交換がなされた。開催場所の問題や費用面、子育て世代の参加者が増えないなどの問題点が出された。

議題 3) 埼玉県眼科医会男女共同参画 取り組みについてのアンケート結果

アンケートは埼玉県眼科研修指定病院の施設に行ったもので、会員個人に行ったアンケートではなかった。34施設中 20施設より回答あり。アンケートに回答のあった全施設と大学病院の回答を比較した。全施設の中には大学病院も含まれ、眼科研修指定病院と大学附属病院を単純比較するものではなかった。大学附属病院では産前産後、育休、時短就労など制度的

なものは整えられているが、どんなときにも働ける託児や病児保育設備がまだ、充分整っていないことが分かった。

議題4) 子育て支援、介護支援についての報告

群馬県より、奥さんが卵巣癌の末期で小学生のお子さん 2 人を抱えた例を報告された。眼科医会として相談を受けた事例ではないが、奥さんの入院前から家政婦さんを雇い支障なく仕事を継続できたとのこと。今後、このような事例があるかもしれない。時間の関係で議論なし。

議題5) 来年は長野県軽井沢で開催予定 (2020年5月23日)

各県1題は提出議題を出すこと。

報告2. 第42回獨協医科大学眼科栃木県眼科医会合同講演会の託児について

①料金について 保育スタッフ1人あたり、1200円/1時間

※最低でも保育スタッフ2名からという規則なので、実質2400円/1時間

②キャンセル料について

前々日から前日17時までのキャンセルで50%のキャンセル料発生、以降は全額徴収

③栃木県医師会への助成金申請について

獨協医師会からの申請に限るとのことで、秘書の正田さんが獨協医師会と手続

ただ、栃木県医師会の助成金予算も少なく、申請が受理されるかどうかは不明

④石崎先生の提案を頂き、7月からは託児申込書を関東甲信越眼科学会のものを模して作成

⑤託児利用時間について

講演会時間の19:00~21:00まで利用OK。ただ、前後30分の準備・片付け時間が必要

実際の託児利用時間18:30~21:30までの3時間

《日眼医連盟》

【吉澤】

報告1. 羽生田議員と自民党のパンフレット等について

各診療所へ配布。

協議1. 参院選挙(7月21日)への対応について

羽生田たかし候補へのご支援をお願いしたい。

報告3. 平成30年度献眼者慰霊祭の件(5月19日(日)八幡山公園献眼彰碑前)

吉澤会長が参列

《その他》

次回理事会開催日は9月18日(水)とする。

以上

(斎藤信一郎 記)